

第 57 回

日本親子読書センター秋のつどい

すべてのこどもたちに 読書のよろこびを 心を交わしあう親子読書



親子で参加できる秋の思い出学習

大人向け講演会



〈2018 年講師

藤田浩子さんとフランさん〉



〈2016 年講師

アーサー・ビナードさん〉

絵本作家や編集者、研究者など子どもの本に関わるさまざまな分野から魅力的な講師をお招きして講演会を開いています。「大人が楽しむおはなし会」もあります。

こどもの部屋



親と離れて学年の違う子どもたちが一緒に過ごし、科学遊びや自分で作ったおもちゃで遊びます。絵本読みや、おやつ時間も。本を通した子ども同士のふれあいを大切にしています。

親子で楽しめる



「子どもと楽しむおはなし会」や「閉会のあつまり」は大人と子どもと一緒に楽しめます。

「閉会のあつまり」では子どもの部屋で作った作品を自分で発表します。

日時：2019年11月3日(日)・4日(月)

場所：東京都国分寺労政会館

主催 日本親子読書センター

後援 親子読書地域文庫全国連絡会

日本子どもの本研究会

日本児童文学者協会

日本文学教育連盟

講演会のご案内

1 日目 11 月 3 日 (日)

講演：「『スーホの白い馬』の草原を渡って
—赤羽末吉の人生と絵本—」



講師：赤羽茂乃さん

〈大塚勇三／再話 福音館書店〉

日本を代表する画家赤羽末吉。来年は生誕 110 周年、没後 30 年の年です。数々の著作の中でもとりわけ多くの方に知られているこの作品の魅力を、赤羽家の嫁であり赤羽末吉研究家の赤羽茂乃さんにたっぷり語っていただきます。

【講師プロフィール】

1952 年東京都生まれ。1979 年日本を代表する画家、赤羽末吉の三男研三氏と結婚。翌年末吉は日本初の国際アンデルセン賞・画家賞を受賞。11 年間義父末吉の近くで暮らし、その日常に触れる。1990 年、末吉他界。その後研三氏とともに遺された約七千点の原画、スケッチ、資料の整理に携わり、以降赤羽末吉の人生と作品の研究を続けている。

2 日目 11 月 4 日 (月)

原画展とトークイベント：

絵本作家 60 人による
原画展 2 日間開催

『戦争なんか大きらい！』



絵描きたちのメッセージ』

田畑精一、長谷川義史、和歌山静子など、約 60 人の絵本画家が平和への想いを絵に託し、大切な憲法の条文をそえて一冊の本ができました。2018 年 9 月に大月書店から刊行。その原画を一堂に展示して、三人の画家によるトークイベントを行います。

【トークゲスト】

ひろかわさえこさん 浜田桂子さん 福田岩緒さん

おもなスケジュール

スケジュールは変更になることもあります。当日の資料集をご覧ください。

《1日目》

13:00	受付開始 オープニング行事後子どもの部屋へ移動
13:45	講演
16:30	終了（子どもの部屋はここまで）
18:30	子どもと楽しむおはなし会・ものづくり
19:00	解散

《2日目》

9:30	受付開始（受付後子どもの部屋へ）
10:00	講演
12:00	講演終了 昼食は親子で
13:00	おとなが楽しむおはなし会
15:00	閉会のあつまり（子どもたちが合流）
15:30	解散

食事や宿泊は、各自で手配をお願いします。

近隣に飲食店は多数あります。会場内での飲食も可。ごみはお持ち帰りください。

子どもの部屋 小学1年生から中学生

工作したい

作ったおもちゃ
で遊んだい

絵本やおはなし
を楽しんだい

学年の違う子どもたちが集まって、専属の先生とかつて参加者だったお兄さんお姉さんたちと一緒に過ごします。ものづくりの先生が準備から完成まで丁寧に指導。周りの子どもたちもいつの間にか協力して自分だけの作品が完成。絵本読みやおはなしも楽しめます。

幼児の部屋 年少から6歳（入学前）

保育の先生と絵本をみたり楽しく遊びましょう。

※子どもの部屋・幼児の部屋は、参加者が決まってから年齢等を考慮して当日のプログラムを決めます。

< 日本親子読書センターの紹介 >

1967年（昭和42年）設立。東京都小金井市の教員による親子読書の会が5年の歳月をかけてセンターを発足しました。創設者代表は斎藤尚吾。当時の活動目標は、①親子読書を広め深める ②どの子にも楽しい読書の場を保障するため、文庫をつくる・図書館などの読書環境整備の運動を興す。③未来をつくる子どもたちに良い本を出合わせる。子どもの本と生活を研究する。というものでした。

52年目の今年も創設の精神を受け継ぎながら、子どもの本に関わる活動をしている方を支援するため、「秋のつどい」開催、機関誌による情報交換を行っています。

『子ども文庫の100年』みすず書房 21018年刊 『生きるための図書館』岩波新書 2019年刊に、当センターが紹介されています。年会費：2000円

ホームページ <https://oyakodokusyo.org>